第76回 KTSM 実技セミナー in 兵庫 基礎コース

開催概要報告

●開催概要 KTSM 実技セミナー基礎コース

「KT バランスチャートを用いた包括的食支援技術」

2018 年 9 月厚生労働省の報告では 70 歳以上の割合が 20.7%に上昇し、高齢化がさらに進んでいます。様々な疾患による嚥下機能障害に加え、加齢に伴う影響、薬剤の影響など、複合かつ複雑化した嚥下機能障害により、食べたいと願うが食べることを禁止されている現状がみられます。また、食べる機能があっても、充分な食支援がなされず苦しんでいる当事者やご家族が多くみられ，医療・介護・福祉での食事支援の充実，スキルの向上が急務となっています。今回，包括的に評価、安全安楽なポジショニング，早期経口摂取につなげるベッドサイドスクリーニング評価，安全で効率的，自立を目指した食事介助など，口から食べるために必要な包括的スキルの習得をし、地域での食べる支援の充実を目的として開催しました。

会期：平成 30 年 12 月 2 日（日） 12:00～16:30
会場：神戸医師会看護学校
（兵庫県神戸市西区学園西町 4 丁目2）
受講者：47 名（1名欠席）
見学者：2名（学校教員）
共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会
企業展示：株式会社 フードケア

・ プログラム概要

1. 口から食べることをサポートするための包括的スキル～KT バランスチャートの活用と支援～【講義】
2. 食事介助に必要なポジショニング
   早期経口摂取に向けたベッドサイドスクリーニング評価【演習】
3. 安全で効率的な食事介助（ベッド上での食事介助）【演習】
4. 自立を目指した食事介助（車いすでの食事姿勢、セルフケア拡大へのアシスト）【演習】
5. 全体まとめ・事例紹介・質疑応答【講義】

● 講師およびアドバイザー

敬称略

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
竹市　美加 （兵庫県）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会　副理長 訪問看護ステーションたべる　管理者	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
廣川　芳枝 （大阪府）	大阪府済生会中津病院	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
宮田　栄里子 （和歌山県）	紀南病院	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
日方　久美子 （大坂府）	大野記念病院	管理栄養士 ・KTSM 実技認定者
高橋　瑞保 （山形県）	はちのへファミリークリニック	管理栄養士 ・KTSM 実技認定者

・ サポーター

敬称略

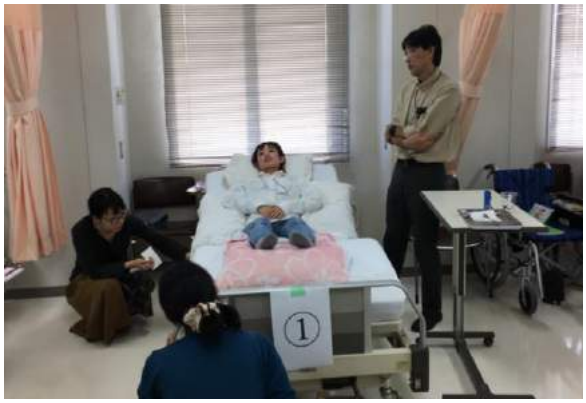
氏名	所属
三木	訪問看護ステーションたべる　事務
今村	ナチュラルスマイル西宮北口歯科　歯科衛生士
佐竹	ナチュラルスマイル西宮北口歯科　歯科衛生士

・ 研修会風景

＜演習＞

☆ポジショニング・ベッドサイドスクリーニング評価

安全に美味しく食べるためには、まず安定姿勢から！安楽で飲み込みやすい姿勢の調整について演習を行いました。不良姿勢も一緒に体験してもらうことで、適切な姿勢を調整することの重要性を体感してもらいました。



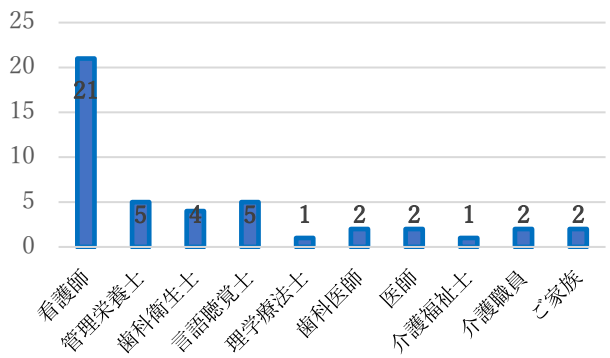
☆早期経口摂取につなげるための、ベッドサイドスクリーニング評価スキルを学びました。ぜりーなど評価食材の見せ方、端的で必要最小限の声かけ、スプーンの操作方法、頸部聴診法について、実践しながら学びました。
段階的のステップアップ評価についても取り入れ、対象の持つ力を最大限に引き出し、良い結果につなげていく評価方法について学びました。

☆安全で効率的な食事介助（ベッド上での食事介助）
　安全に効率的に介助するための、ポジショニング、テーブルの位置や高さ、スプーン操作、介助ペースなどを学びました。スプーン操作では、介助される対象が“自分で食べるように”“食べやすい”介助を、体験を通して学び、スプーン操作によって口腔内の残留や口のためこみなどの症状につながる可能性があると実感していただきました。

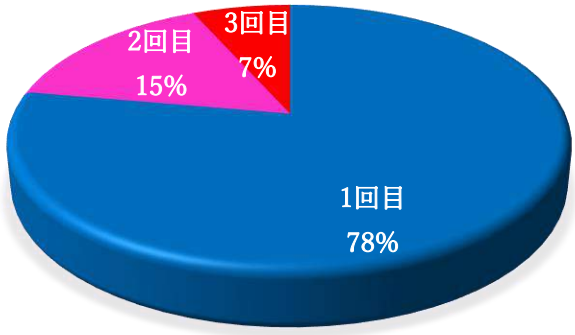
☆自立を目指した食事介助（車いすでの食事姿勢、セルフケア拡大へのアシスト）
車いすでの姿勢調整（シーティング）を体験。車いすでは食べにくく、バスタオルなどを使って座面などを調整するだけで、姿勢が安定し食べやすくなることを体験してもらい、シーティングの重要性を体感してもらいました。
姿勢に合わせて、食事動作も自立を目指したアシストを学び、セルフケア拡大につなげます。できないところとできるところを評価し、できないところをサポートしながら、自立につなげていきます。

● 受講者47名（アンケート回答45名）

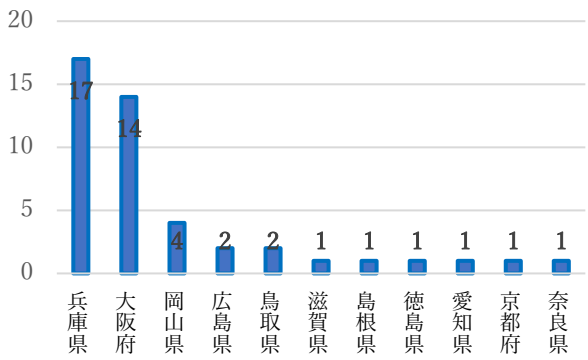
職種



参加回数



勤務先所在地



● アンケート結果

1　参加理由

（1回目参加者）

・　入院絶食後、戻ってきた入居者様に対し、施設の担当医から経口摂取との話があり、支援員・看護師を含め、正しい知識がなく戸惑った。食べることが大好き方だったのに、食事拒否がありなかなか経口摂取ができなかった、支援員からも拒否があるのに提供するのはどうかの意見がでた。その時にこの法人を知り私たちがしたいことはこれだ！と強く感じたため

・　小山先生が紹介されている TV を見て興味を持ち、ネットで調べてセミナーをやっていることを知った。

・　実父が入院中に TV で KTSM のことを知り、退院したら少しでも食べることができるようにと考えていました。今は利用者様が少しでも口から食べ続けるためにはどうしていくのがいいのかを知るために参加しようと思った。

・　職場の後期研修医からのお誘い。

・　竹市先生の姿勢調整の方法を身につけたくて参加しました。

・　訪問歯科治療実施中にて、摂食嚥下障害の患者様を診ることが多く、食事支援について学びたかった。

・　食べていただく上で、自分のスキル不足を痛感して参加しました。

- 自分の知識や技量不足を補うため。多職種に技術をどのように伝えるかという観点からも学びたい。
- 今まで VF の結果で食べる食べられないを判断してしまっていたが、もっと包括的に評価する方法を学びたいと思ったため。
- ご高齢の方にいかに食べれる能力や機能があっても、介助側の介助力の低さにより、肺炎になり経口摂取が継続できない現状があり、正しい方法を身につけ、指導できるようにならないと感じたため。
- 職場（ディサービス）で食支援を今より充実させるため、同僚と参加しました。
- 食事介助、ポジショニングの方法を学びたかったため。
- 護福祉士の資格も取り、歯科衛生士として食支援のアドバイスを包括的スキルを身につけたいと思いました。
- 実際に嚥下チームに参加するにあたって、不足な部分が多いと実感し、そこを充填出来るようにと思ったから。
- 口から食べたいと願う患者様やご家族が多いにも関わず、肺炎を起こすからと静脈・経管栄養が選択されています。私の勤めている病院では特にそうです。積極的な経口摂取へのアプローチが出来ていません。自分自身にもスキルがないため、何も出来ません。１つでも身につけたいと思い参加しました。
- 絶食のまま退院していく患者さんについて考えていきたいと思ったから。
- 食事介助に不安があり、学びたいと思った。
- ランスチャートを使って、経口維持計画を立て、アセスメントをしております。独学ですので実際に体験したいと思いました。
- 食事介助の技術を得るため。
- 摂食嚥下障害認定ナースとして活動する上で、確実で正確な技術を身につけたいと考えているため。
- スクリーニング、スプーン操作等手技をもう一度学びたかった。
- 誤嚥なく摂取できるか。食欲の意欲を持っていただけるには。知識・技術・スキル UP
- 高齢者は誤嚥性肺炎になりやすいため、その予防としても栄養や食事時のポジショニングは勉強したいと思ったため。
- 摂食嚥下ケアのアセスメント・評価・スキルアップの向上。院内スタッフの摂食嚥下ケアの理解向上とモチベーションアップ。患者、家族への適切な指導。地域住民へ向けた食支援における学習会を充実した内容にするため。
- 実践の場で必要と感じたから、すすめられて
- 早期に食事開始出来るように援助したいので、その方法を学びたいと思いました。
- 食事ポジショニングが上手くいっていない、利用者に正しいポジショニングをしてあげたかった。元気に歩いている方よりも、胃瘻の方が食べれるためにスキルを身につけて見付的にスキルを身につけたいと思った。
- 食べるという事がどれだけ大切かは施設ナースになって考えるようになり、このセミナーに参加しました。
- 院内で経口摂取に向けて看護師が実践的に取り組むことができるようにしたい、昨年度から NICD 導入しており、経口摂取できるように患者さんと関わっていきたい。
- 今後、摂食・嚥下機能評価を看護師が介入出来るようにしていきたいと思い、実技・実践を学習したい

ため参加しました。

- NST で必要な知識・技術を得たいと思ったため。
- 主人が飲み込みができにくくなっているので、援助の方法を知りたかった。

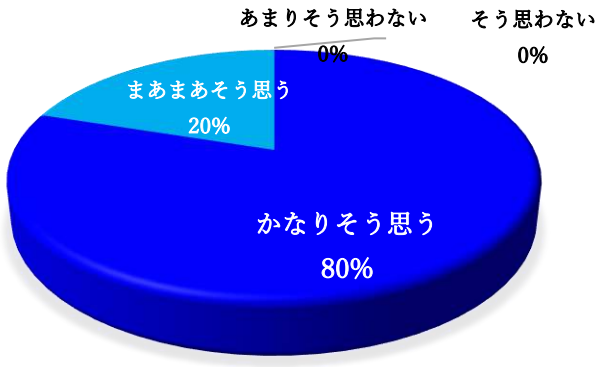
（２回目参加者）

- 院内で食スキルに関する知識・スキルを深め、地域（在宅）へ帰る支援チームを作る（今回は他職種と一緒に参加しました）
- 知識と技術を学び、実践に活かしていきたいため。
- 自分の知識とスキルをあげることにより、安全に食べられる人が増えると嬉しいので。ただ単に頑張ろうと思えるので。元気になれるので。
- 「食べることは生きること」だと思い、栄養管理士になることを選んだので、自分人できることを知識・実技ともに高めたいと思い参加しました。
- 前回の実技セミナーで小山先生の情熱に感銘を受け、教えていただいた技術も参考に取り組み、三食経口摂取は難しいと言われていた患者さんも三食経口摂取できるようになりました。もちろん他職種の連携あってのことです。今回、自己流になってないか再確認の意味もあり参加しました。
- 食事介助の技術を学び、職場に持ち帰りたいと考えた。
- 胃瘻の主人（現在ムース食１日１回）に少しづつでも、今よりさらに食べさせてやりたい。

（３回目以上）

- 自己研鑽、自身の知識・スキル向上のため。
- 認定看護師として活動していますが、知識や技術が不足していて患者様への食べる支援が十分に行えてないと感じたため参加させていただきました。病棟におられる患者様を救いたい一心で研修に参加させていただきました。
- 住友病院内で KTSM の取り組みを広める目的で同僚を連れてきた。

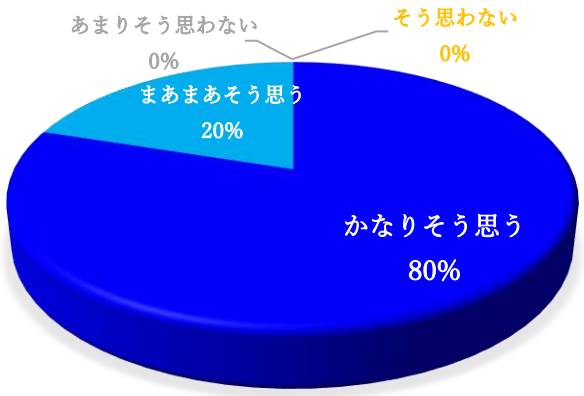
２　本日のセミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか。



- ポジショニングへの知識や根拠が得られた。
- 実践での経験（特に患者役）をさせてもらいわかりやすかった。

- ベットサイドスクリーニングから実践的に患者さんのポジショニング等、患者体験をしながら学ぶことができた。
- 姿勢調整、自立摂取に向けたアプローチを特に学ぶことができた。
- 利用者の視点・気持ちが少し見えた気がします。
- 指導者の方の説明もわかりやすく、スキルアップにつながったと思う。
- ポジショニングや介助方法が合ているのがなどがよくわかりました。タオルを使ってやっていますが、微妙な位置の違いやまたスプーンの運び方がよくわかりました
- ポジショニングを体験することで、たくさんの気づきがあった。
- 介助される側と経験することで、見やすい、見にくい、食べやすい、食べにくいが良くわかりました。姿勢がとても大事だと感じました。
- スプーンの操作法が特に勉強になりました。
- 自分も介助受けることで、良い方法、悪い方法が実感できました。
- 評価の仕方や食介方法等、自己流になってしまっている部分に気づくことができた。
- まだまだ身につくことに繋がっていないのですが、テキストで反復しながらスキルアップにつながっていくのかなと思います。
- 自己流になっていた食事介助に不安を持っていたのが、具体的に教えていただいて役に立ちました。
- スプーン操作はやはり自己流になっていたので再度見直します。
- 食べたいと思える食事、食べたいを思える姿勢（環境）だけでなく、安全に食べられるなど包括的に学ぶことができました。
- ポジショニングやスプーン操作がとても勉強になりました。まだまだスプーン操作には時間が必要だと思いました。
- 毎回受けることで、改善点や新たな発見があり、次に生かそうと思う事が出来ます。また実際に KTSM を使用し展開することで PT の食支援を支えることが出来た時はスキルアップできたなと思います。
- ポジショニング方法と食事介助方法について基本的な所を学べたので、実際の対象者に向けて実践していけたらと思った。
- 車椅子の机考えます。車椅子の環境の整え方実践します。
- 食べるための技術を施設に帰って伝えたい。ひとつでもいいので介護職員と共有したい。
- 嚥下状態が悪い人の評価や食事介助の方法の実践があるとよかったです。
- 自分が介助される体験が少ないのでよい体験ができた。
- 細かな所を何回聞いても忘れていたり、気を付けれていなかったりするので、また参加してスキルアップしていきたいです。

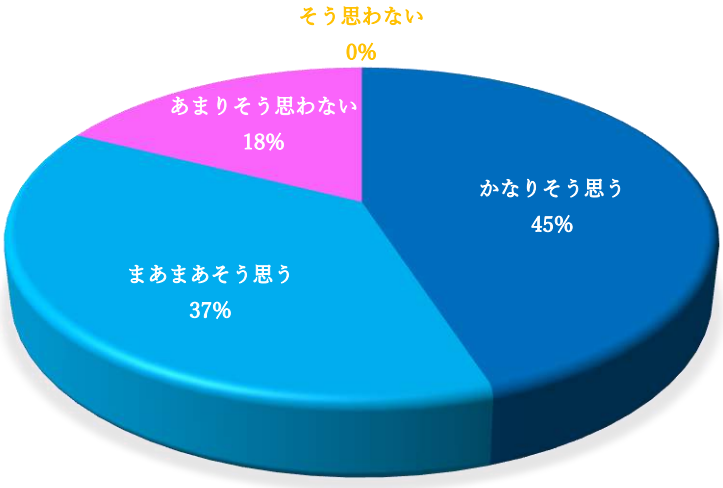
3　本日の実技セミナーは、今後の実践の場面で活用することができると思いますか。
活用できる場合はどんな場面で活用出来るか具体的にご記入ください。活用できない場合の理由もお願いします。



- 全介助、アシスト（患者個々に合わせた）必要なところのみ。全く知らないスタッフに対しての食事介助の姿勢、介助の仕方などの実施。
- ナースや介護士に伝達をする。
- スプーンの方向、「見せる」ことに対し今まで出来ていなかったことが多くあった。
- 即、主人に利用します。
- 全て実践につなげれると思います。
- 現状を分析し、今のケア内容を考える。
- 職場が療養病棟なので、食介助が必要な人が多いので実践していきたいと思います。またターミナル期における人にも最期までなるべく口から楽しめるように関わっていければと思います。
- 車椅子のポジショニングを病棟全体で頑張りたいと思います。
- 本人の食べたい気持ち、食べにくさなどを感じた時に活用できそうだなと思いました。
- 知的障害の施設で働いているため、実際にどこまで理解してくれて、どこまで実践できるかは不明だが、今までに無かった知識を学べました。
- 自分の担当するフロアーに食事介助を行っている方がいます、単に食べさせる介助ではなくもっと多角的に考えてアプローチするのに参考になりました。本日の実技を即、食事介助に実践したいと思います。
- 食事の際のポジショニング
- 介護度の上がる入居者さんへの食事介助に悩む職員にアドバイス出来そうです。
- 嚥下評価するにあったてもどうしたら食べれるようになるか、という視点を持つことができ、そうするためには評価する側がどんなことに注意したら良いか具体的にわかりました。
- 日頃のミールラウンドの途中に気になっている事も、スキルがなかったので意見することが自信を持って出来なかったが回のセミナーで学ばせていただいたことでそれが出来るように思う。
- 食事介助時、口への持っていき方や目線を気にすることなど。
- 経験のある介護スタッフやケアマネに遠慮して、その介助は違うのでは？という事が言いにくかったが、しっかりした根拠のもと受け入れてもらえるようにアドバイスしていきたいと思います。
- 現状では VE,VF 優位で評価されている。医師の方針で NS,ST による MWST,FT は行っていない。手技を再確認し、スクリーニングを導入出来るよう、働きかけていきたい。
- 病院で勤務していますが、スクリーニング、自力摂取へのアプローチに活用できると思う。

・　ベット上、車椅子での安定したポジショニング、スプーンでの介助。
・　院内の教育研修のプログラムを考えるのに参考に出来る。
・　胃瘻の方が将来的に口から食べれることが出来ること（日が来ること）。
・　評価の方法、摂取方法などを含めて、実践出来ていなかったと思うので、正しい方法で行えると思います。
・　口腔ケアや治療は注水して誤嚥の機会が増えるので、姿勢調整してから臨むようにします。嚥下介入も実際行っていけるよう、もっと積極的に勉強します。
・　スクリーニングの方法。ベット上で食べる時はまず下肢から上げる→上体を上げながら下肢をさげる、しっかり圧を抜く車椅子座位の時の調整方法
・　実際にポジショニングや患者体験をすることで、別途のジャッキアップの際に体圧やずれを体感することが出来た。
・　チーム活動に活かしていきたい。知識やスキルアップの向上を目指したい。
・　ポジショニングと目の位置、自分のペースにならないなどわかっているが確認できた。
・　勤め先では全職種に食事介助を依頼するため、食事介助の説明の時に活用できると思います。
・　活用したいとは思うが、上手く他のスタッフへ伝達しきれないので難しい部分があると思う。理解力もだが、ケア力の違いの多いので。
・　今日の勉強会をへて、現場の介護士・看護師への指導を行っていきた。しかしながら現場からはマンパワー不足を理由に十分に行ってもらえない現実もあり、そこをどうしていくかという課題もあると感じました。
・　在宅であれば、食支援に対して直接向き合えるが、施設等におけるとマンパワーの問題など難しさはある。

4　本日の実技セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いますか。



☆そう思う
・　院内で行いました（主に去年看護のリンクナース向けに）。次は病棟で２月に行います。
・　KTBT の院内活用。本日の講義内容と実践が院内で出来るようになりたい。

- 伝達講習という形で実技中心に行いたい。
- KTBT の院内活用。本日の講義内容と実践が院内で出来るようになりたい。
- まずは自身の病棟から変えていければと思い、還元学習などで活動を細々と行っていますが、実際はなかなか上手くいかないのが現状です。
- 車椅子のポジショニングの研修を企画したいと思います。座面のたわみなどスタッフが知らないので体験学習を企画したいと思いました。
- 2019 年度内に住友病院 NST へ KTSM をどう紹介するか、相談させて下さい。
- 月に 1 回施設内研修があるので行ってほしい。他部署（ショートやヘルパーステーション）も参加するので。
- 車椅子上での食事、テーブルの必要性。
- 現場の摂食介助は姿勢や手技などスタッフの業務中心で「早く食べ終わらせる」ことが大事なことのようになっている。自分達の介入次第で患者さんの能力を引き出し、食べる楽しみ、喜びを感じてもらい共有する喜びを伝えていきたい。
- 2 人今回参加出来ているので、具体的に課長グループと NIC の Ｄｒ.、NS グループを中心に実施していく。
- 実際に患者体験をしてもらう。（ポジショニング、食事の味など）
- 自分で行うのは難しいと思うが、機会やチャンスがあれば働いている病院で研修をしてもらいたい。
- 相談員が一度このセミナーを受けているので、2 人でゆっくり時間をかけて実施したい。
- 食事のポジショニングについて
- 胃瘻を造設した人への経口摂取のリハビリは私の周囲では優先度が低い。
- 自分自身のスキルに不安があるので、人に伝えられる自信がないですが、いずれしてみたいと思います。
- 内部研修でスタッフに対し、嚥下・食事介助に関するテーマで今回のポイントを伝えたい。
- 自分で実践してから周囲の職員に広めていきたい。
- 職場のユニット勉強会など利用者の食べる体験を計画中
- まだまだそんなことは出来ませんが、出来るようになれればいいなと思います。
- 特養の介護士さんに指導していきたいと思う。

☆そう思わない

- 現在は他スタッフに協力が得られない。
- 自分の知識、経験不足のため難しいです。
- 他職種への食事介助の説明会などは出来ればと思いますが、まだまだ実技のスキルアップが必要だと思いました。
- 自分で企画するのは出来ないが、鳥取でセミナーがあればぜひ参加したい。

5　「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実技セミナーで取り上げてもらいたい内容があればご記入ください。

- 直接訓練に入る前の間接訓練の方法。いきなり経口摂取は抵抗を感じます
- 症例と実際の訓練の流れ、病院など他職種への働きかけなど、具体的なことは知りたいです。

- 「口から食べる」ことの明確なエビデンスのあるメリット。全てでなくても少量でも口から食べることで得られる明瞭なメリット。
- KTBC の例を用いて、実際に使ってみる。
- 同様の内容で、次はもう少し長い時間で行われてるセミナーに参加したいと思います。
- 筋緊張をいかにとらせて食べさせるか。
- 姿勢調整が困難な方の食事介助。
- KTBC のつけ方のポイント、施設で活用するためにどのようにすればよいか。
- 知的障害の人へのアプローチ
- 口は開けてくれるが、全く飲みこまない方やはずれやすい方の事例。噛める歯はあるが、少しの粒でも吐き出してしまう方。
- 現場で日々悩んでいるのですが、今は思いつきません。高齢になると疾患も重複してる方が多いので難しいと感じています。
- 実際にどのようなものが食べれるか、食意をアップするにはどのような工夫が必要か。
- 食思の低い方（本人)、ご家族は食べさせたい、本人と家族の思いが違うときの介入など。
- 麻痺による傾きや収縮のある方のポジショニング

アンケートでいただいたご意見をもとに、より実践につながるセミナーに進化させていきたいと思います。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

学びを実践し、全ての人の食べる幸せをまもることができるように、頑張っていきましょう！